

再資源化業者の概況について (エアバッグ、ASR再資源化業者)

エアバッグ類 引取・再資源化体制の概要 / 実績について

自動車リサイクル法において、自動車メーカー等にはエアバッグ類の引取り・再資源化の義務が課せられており、以下の2つの処理方法が存在する。

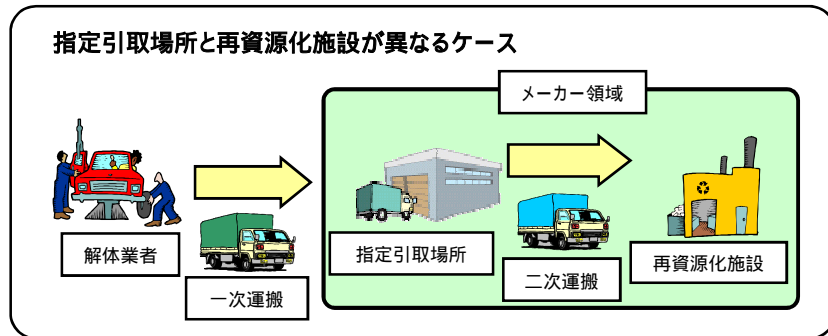
『**取外回収**』:解体業者が取外回収したエアバッグ類のインフレーター(ガス発生器)を引取って、指定引取場所を経由して再資源化施設において、リサイクルする方法

『**車上作動処理**』:使用済自動車に装備されたままの状態エアバッグ類を作動させる作業を解体業者に委託することでリサイクルする方法

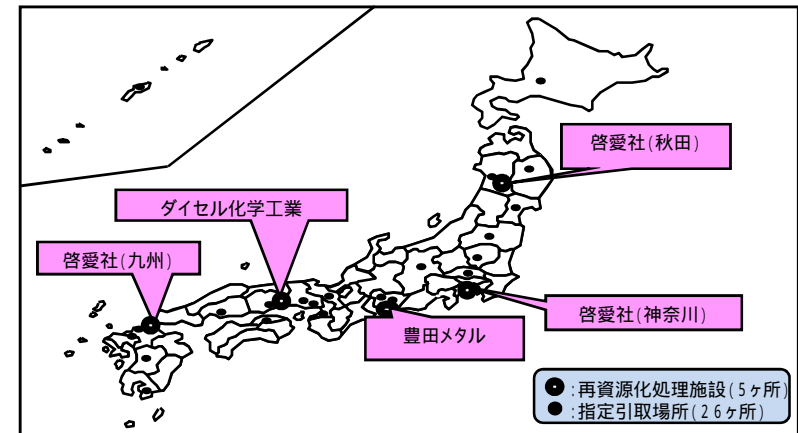
1. 取外回収処理

(1) 指定引取場所

指定引取場所については、引渡す側の解体業者の利便性と社会的経済効率の向上、及び既存施設を活用することによる効率性を踏まえて、自動車メーカー等が共同で全国26箇所に設置した。… (右記配置図参照)



(指定引取場所及び再資源化施設の配置図)



(2) 再資源化施設

エアバッグ類の再資源化は、作動時のインフレータの飛散や作動により炉内温度が不均等となること等のため、ロータリーキルンや溶融炉などでの処理が困難であり、ガス発生器の処理実績のあるエアバッグ処理専用施設で行っている。… (右記配置図参照)

2. 車上作動処理

車上作動処理の業務委託は、メーカー等の共同窓口である自動車再資源化協力機構が解体業者との間で締結。



3. エアバッグ類 引取・再資源化実績(07年4月~08年3月)

	引取台数	再資源化台数 (再資源化率) ²
07年度 引取・再資源化実績 総計 (下段は()内は06年4月~07年3月実績)	1,002,406台 (723,232台)	—
車上作動処理実績 ¹	812,917台 (553,337台)	—
引取台数(指定引取場所) ¹ 〔取外回収個数〕	192,354台 (172,835台) 〔306,323個〕	—
(再資源化施設別 再資源化実績)	ダイセル化学工業(株)	—
	(株)啓愛社	—
	豊田メタル(株)	—
		113,847台 (93.6%) 41,648台 (96.0%) 36,859台 (92.8%)

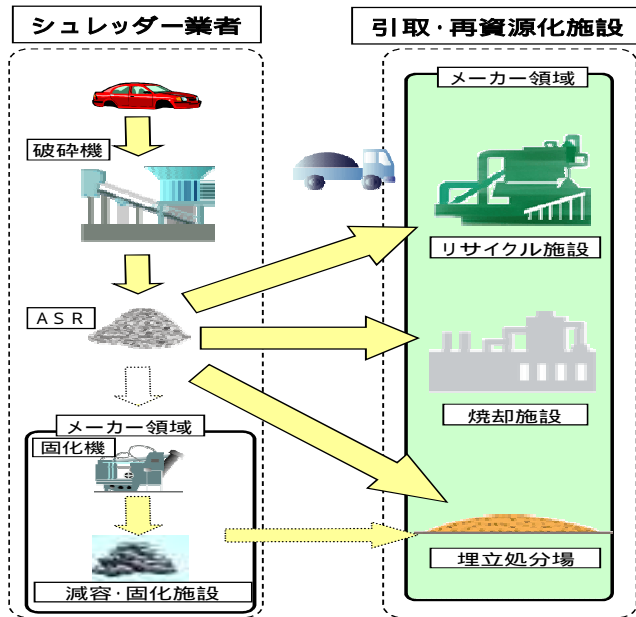
※1 一部取外回収・一部車上作動処理の実績台数(2,865台)は車上作動処理実績および引取台数(指定引取場所)の双方に計算している。

※2 再資源化台数(再資源化率)は、各再資源化施設で処理実行された実績を示す。指定引取場所で引取られたエアバッグ類は、輸送コストミニマムの観点から効率的なロット輸送が行われているため、再資源化処理までに期間を

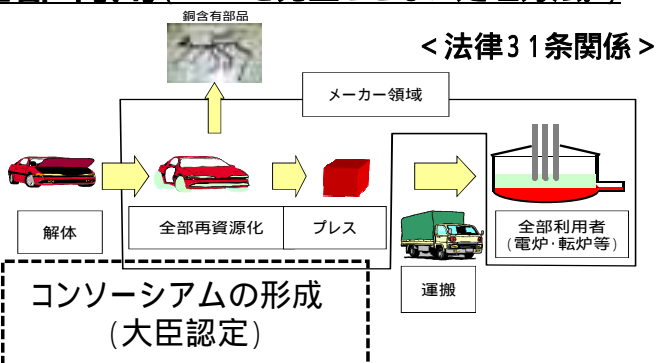
シュレッダーダスト(ASR)の引き取り・再資源化の体制及び実績

シュレッダーダストの再資源化については、トヨタ自動車、本田技研工業などから構成されるTHチームと日産自動車、三菱自動車工業などから構成されるARTの2チームにより処理。

再資源化におけるメーカーの役割



全部利用 (ASRを発生させない処理方法。)

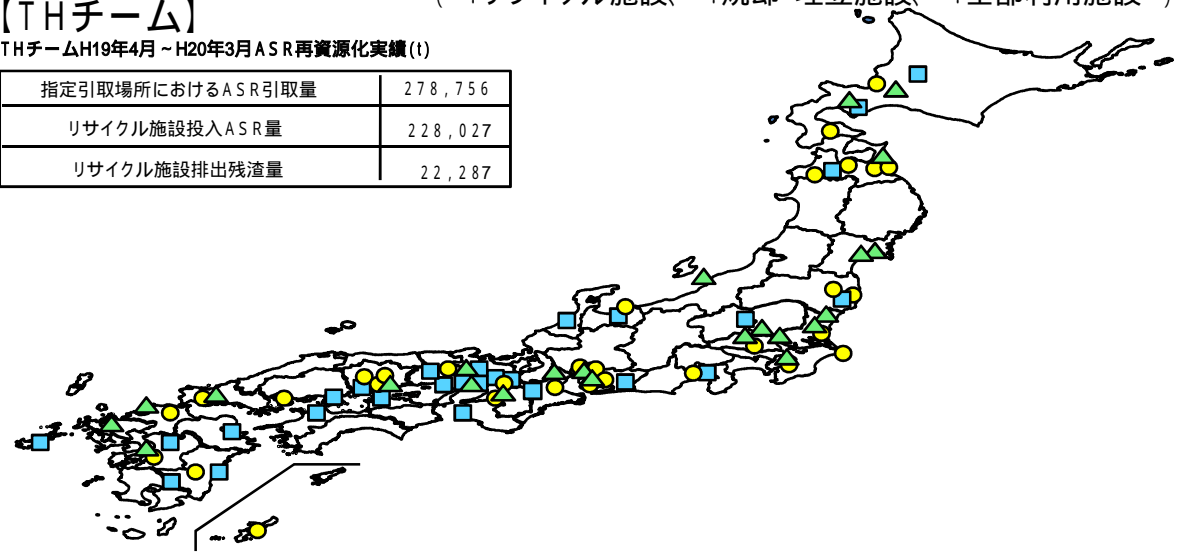


【THチーム】

(●:リサイクル施設、■:焼却・埋立施設、▲:全部利用施設)

THチームH19年4月～H20年3月ASR再資源化実績(t)

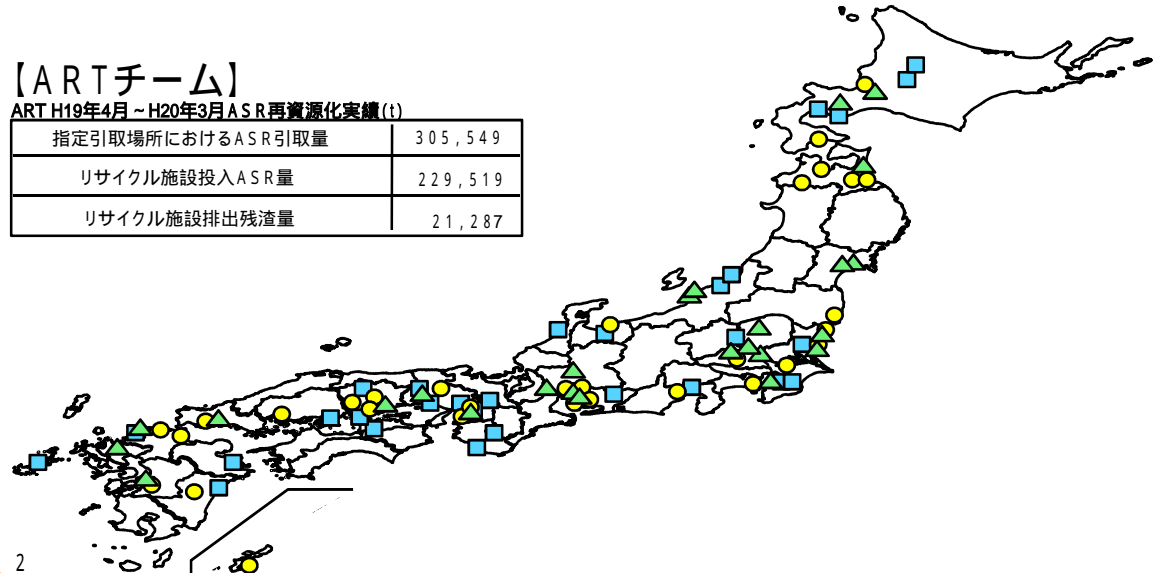
指定引取場所におけるASR引取量	278,756
リサイクル施設投入ASR量	228,027
リサイクル施設排出残渣量	22,287



【ARTチーム】

ART H19年4月～H20年3月ASR再資源化実績(t)

指定引取場所におけるASR引取量	305,549
リサイクル施設投入ASR量	229,519
リサイクル施設排出残渣量	21,287



ASRリサイクルの技術分類

現在稼働中であるASRリサイクル技術のうち、主要なものは、大別して以下のように類型化することが可能である。いずれも、ASRの特性を踏まえ、ASR中の可燃物たる有機物からの電力・熱・可燃ガス等のエネルギー回収(利用)と金属・スラグ等のマテリアル回収の双方を組み合わせた複合的なものとなっている。

『燃料代替 + 原料化』(7事業所)

非鉄金属精錬等の素材産業の既存設備を活用し、ASR中の可燃成分を燃料に代替することに加え、銅をはじめとする金属等を回収する技術。

『焼却処理 + 熱回収 + 原料化』(6事業所)

焼却処理を行って連続するボイラーによって蒸気や電力の形で熱回収を行うとともに、その焼却灰等を灰溶融炉で処理して金属資源やスラグを回収する技術。

『乾留ガス化 + ガス利用 + 原料化』(5事業所)

ASRを乾留ガス化して、発生する燃料ガスを改質・精製後そのまま利用する技術。乾留残さについては、工業用カーボン材料等に利用するか溶融化して金属資源やスラグを回収する。

『乾留ガス化 + 熱回収 + 原料化』(8事業所)

ASRを乾留ガス化して、連続する二次燃焼炉・ボイラーで熱回収・発電を行う技術。乾留残さについては、溶融化して金属資源やスラグを回収する。

『素材選別 + 燃料代替』(7事業所)

種々の選別工程を加えて、特定の単一素材を回収・再利用する技術。